

成人の主張

岸本 芽依

本日は、私たちのためにこのような式典を催していただき、誠にありがとうございます。多くの仲間と共に故郷である西条市で成人式を迎えることができたこと、大変嬉しく思います。また、市長様をはじめ、多くのご来賓の方々からお祝いのお言葉をいただきましたことに、感謝いたします。

私がこうして成人を迎えることができたのは、多くの人との出会いのおかげです。私は昔から、周りの人々に恵まれ、たくさんの愛をもらいながら育ったように感じます。自分たちのことを温かく見守ってくださる地域の方々、時に優しく、時に厳しくご指導してくださった先生方、一緒にいると笑顔になれる、素敵な友人たち。そして、優しく面白い父、誰よりも自分のことを気にかけてくれる母、友人のように何でも話せる妹たち、いつも自分を応援してくれている祖父母。家族をはじめとする多くの人々の支えがあって、今の私があります。この場を借りて、感謝を申し上げます。

私が子どもの頃は、自分が二十歳になることはずっと先のことだと思い込み、想像すらつきませんでした。二十歳を迎えると、大人の仲間入りができて、お酒が飲めるようになる、くらいとしか考えていなかったように思います。そして今、成人式という、この節目を迎えても、自分が成人したという実感は湧きません。今でも自分は親から自立できておらず、まだまだ子どもであると思うと同時に、そのことに対して少し不安もあります。

今日から私たちは、新成人としてスタートします。今の私たちは、まだまだ未熟です。社会は、まだ自分たちの知らないことの方が多く、多くの厳しいことが待ち受けているでしょう。どんなに厳しいことにも負けないよう、各々が常に目標を持ち続け、少しずつ、成長していきます。大人として胸を張って社会に貢献できるよう、私たちはこれまでの19年間と同じように、新たなことに挑戦し続け、精一杯努力します。

以上、私の主張とさせていただきます。本日はこのような発言の機会をいただき、誠にありがとうございました。